呼吸する地図たち The Breathing of Maps

2019年7月10日[水]—7月15日[月・祝] | 東京芸術劇場 ギャラリー1

July 10(Wed)–July 15(Mon), 2019 | Tokyo Metropolitan Theatre Gallery 1

ASIA IN RESONANCE 響きあうアジア 2019

ASIA center JAPAN FOUNDATION

東京芸術劇場 Tokyo Metropolitan Theatre

[Installation & Video Documentation]

July 10(Wed), 2019- July 15(Mon)
Open hours 13:00-18:00(Last day closed 17:00)
Admission Free
Ho Tzu Nyen, Carlos Celdran, chi too, Farish A. Noor, Kohara Masashi, Okui Lala, Nishio Kaori, Janet Pillai

[インスタレーション＆映像アーカイヴ展示]

2019年7月10日[水]—15日[月・祝]
13:00-18:00(最終日15日は17:00まで)
入場無料(どなたでも自由にご覧いただけます)
ホー・ツーニェン、カルロス・セルドラン、ファリッシュ・ヌール、ジャネット・ピレイ、オクイ・ララ、チ・トゥー、小原真史、西尾佳織

[Lecture & Lecture Performance & Symposium]
Admission Free (signing up in advance necessary)
Capacity: 100 seats each

July 10(Wed) 19:00-20:30
Ho Rui An
Lecture Performance
Asia the Unmiraculous

July 11(Thu) 19:00-21:00
Mark Teh + Idaka Kumiko
Special Guest: Thongchai Winichakul
Introduction by curators and the guest speaker
Geo-Bodies across Eras

July 12(Fri) 19:00-20:30
Irwan Ahmett & Tita Salina
Lecture Performance
Name Laundering

July 13(Sat) 14:00-18:00
International Sumposium 2019
Trading Places: Artists, Curators, and Exhibition Making across Multiple Contexts
Ade Darmawan, Jeebesh Bagchi, Iida Shihoko, Mark Teh, Andrew Maerkle, Che Kyongfa

July 14(Sun)
17:00-18:00
Kohara Masashi
Lecture
Missing Bodies and Photography

19:00-20:00
Shiga Lieko + Shimizu Chinatsu + Nagasaki Yoshitomo
Lecture
Human Spring

July 15(Mon) 14:00-15:00
Furuichi Yasuko　Directed by Mark Teh
Lecture Performance
Jalan–jalan di Asia (Wandering in Asia)

[レクチャー＆レクチャー・パフォーマンス＆シンポジウム]
入場無料(事前申込制)｜定員100名

7月10日[水] 19:00-20:30
ホー・ルイアン
レクチャー・パフォーマンス
「アジア・ザ・アンミラキュラス」(英語｜日本語字幕)

7月11日[木] 19:00-21:00
マーク・テ＋井高久美子
トンチャイ・ウィニッチャクン(特別ゲスト)
キュレーター、ゲスト・スピーカーによるイントロダクション
「時代を超える地理的身体」(英語・日本語｜逐次通訳)

7月12日[金] 19:00-20:30
イルワン・アーメット＆ティタ・サリナ
レクチャー・パフォーマンス
「ネーム・ロンダリング」(インドネシア語｜逐次通訳)

7月13日[土] 14:00-18:00
国際シンポジウム2019
「エキシビション・メイキング：文脈を繋ぐ、作る、届ける現代美術」
(日英同時通訳)
アデ・ダルマワン、ジーベシュ・バグチ、飯田志保子、マーク・テ、アンドリュー・マークル、崔敬華

7月14日[日]
17:00-18:00
小原真史
レクチャー
「不在の身体と写真」(日本語)

19:00-20:00
志賀理江子＋清水チナツ＋長崎由幹
レクチャー
「ヒューマン・スプリング」(日本語)

7月15日[月・祝] 14:00-15:00
古市保子　演出‖マーク・テ
レクチャー・パフォーマンス
「アジアを歩く」(日本語)

地図は、空間的および国家の主権、文化、経済、そして生き方に対する人びとの想像力の劇的で、かつ隠喩的な変化を明らかにするメディア、装置、表象である。

Maps are media / devices / representations, that reveal the dramatic and metaphorical changes in imagining spatial and national sovereignty, culture, economics and ways of living.

レクチャー／レクチャー・パフォーマンス

ホー・ルイアン Ho Rui An
レクチャー・パフォーマンス Lecture Performance

「アジア・ザ・アンミラキュラス」 *Asia the Unmiraculous*

1997年のアジア通貨危機を発想の起点として遡ること19世紀近代以降のアジアの奇跡、経済危機とその復興についての国を越えた考察と想像の物語。ホーは、タイ、マレーシア、韓国、日本の調査に基づき、アジア経済の未来主義の出現、発信・受容の流通の軌跡をポップカルチャー的手法を通じて辿る。本作では背後にある権力を表象する「人間の手」というモチーフを用いて、国家や国家間力学を支配する外的、内的な権力がダイナミックに表現される。

マーク・テ＋井高久美子 Mark Teh + Idaka Kumiko
特別ゲスト‖トンチャイ・ウィニッチャクン Special guest: Thongchai Winichakul
キュレーター、ゲスト・スピーカーによるイントロダクション Introduction by curators and the guest speaker

「時代を超える地理的身体」 *Geo-Bodies across Eras*

地図によって形成され、現代の国民国家を表象する「地理的身体」は、国というフレームを可視化することによって、歴史、政治、文化、経済にどのような影響を与えてきたのか、具体的な事例を含めながら考察を行う。また、本企画のコンセプトにおける重要な参照項のひとつ「地図がつくったタイ」の著者 トンチャイ・ウィニッチャクン（歴史学者）をゲスト・スピーカーに迎え、地図を静的なものとして捉えるのではなく、更新されうるものとして捉え、未来における「地理的身体」が、時代を超え、どのように普遍化、または変質しうるのかを発表する。

イルワン・アーメット＆ティタ・サリナ Irwan Ahmett & Tita Salina
レクチャー・パフォーマンス Lecture Performance

「ネーム・ロンダリング」 *Name Laundering*

環太平洋地域における地政学的問題に取り組むアーメットとティタが10年間継続しているプロジェクトの一環として、今回は東南アジアの海上交通の要所である、マラッカ海峡におけるインドネシアとシンガポールの関係を考察する。植民地主義、ナショナリズム、資本主義から生まれた国家や国境の支配に対し、歴史上の航海、密輸、転覆工作、宣誓といった行為からヒントを得て、シンガポール国境を通過するための非合法でユニークな8つの方法を提案する。

小原真史 Kohara Masashi
レクチャー Lecture

「不在の身体と写真」 *Missing Bodies and Photography*

写真は死者の代理物として遺族によって大切に扱われてきた。死者のイメージを大切にする習慣は欧米や東アジアにも広くあるが、ときに写真が生者の代理物としても機能することもあった。本レクチャーでは、写真と身体との関係について考察する。
※本レクチャーは「ヒューマン・スプリング」に連関する。

志賀理江子＋清水チナツ＋長崎由幹 Shiga Lieko + Shimizu Chinatsu + Nagasaki Yoshitomo
レクチャー Lecture

「ヒューマン・スプリング」 *Human Spring*

地球の地軸の傾きによってもたらされる四季。長い冬から突然訪れる東北の春。春は、社会的な時節であるとともに、個人の身体・精神にも変化をもたらす。東北大震災から8度目の春を迎えた今年、東北に暮らす志賀、清水、長崎が"人間の春"について、さらには自然の一部である身体の生と死の深淵について、語りと映像を交えて表現する。

古市保子 Furuichi Yasuko
演出‖マーク・テ Directed by Mark Teh
レクチャー・パフォーマンス Lecture Performance

「アジアを歩く｜Jalan-jalan di Asia」 *Wandering in Asia*

国際交流基金において、1990年代から現在に至るまで、美術コーディネーターとしてアジアと日本の美術交流事業を手掛けてきた古市が、これまでに事業に携わったキュレーターやアーティストたちから提供されたキーワードをきっかけとして、アジアのアートフィールドの「遊歩者」として語る。

ホー・ルイアン
Ho Rui An
［アーティスト／シンガポール］
美術、映画、パフォーマンス、文化理論の交差点で作品制作を行うアーティスト。グローバリゼーションや国家などによる統治の文脈において視覚的な象徴［イメージ］の出現、伝播、消滅を調査し、それらを思考・構成し、レクチャー・パフォーマンスやインスタレーションとして表現。ジャカルタ、シャルジャ、コチ、光州などの国際展など多数招へいされ、日本では、代表作《Solar》がTPAM（国際舞台芸術ミーティング、2016年）で公開され、インスタレーションは「サンシャワー」展（森美術館／国立新美術館、2017年）にも出品されている。

マーク・テ
Mark Teh
［演出家、研究者／マレーシア］
1981年クアラルンプール生まれ。マレーシアを拠点に活動するアーティストやアクティビスト、プロデューサーたちの共同体「ファイブ・アーツ・センター」のメンバー。「呼吸する地図たち」コ・キュレーター。ロンドン大学ゴールドスミス校芸術政治学修士課程修了。「ファイブ・アーツ・センター」の様々なプロジェクトを通じて、特に歴史、記憶、都市の問題を考察し、その成果は主に舞台芸術として発表されているが、マラヤ共産党を取り上げた《The 1955 Baling Talks》は世界各国の芸術祭で高い評価を受けている。近年では、教育の現場や展覧会のキュレーション、執筆といった活動も多い。

井高久美子
Idaka Kumiko
［インディペンデント・キュレーター／日本］
1982年生まれ。キュレーター。東京芸術大学大学院映像研究科修了。2012-19年、山口情報芸術センター［YCAM］に勤務。YCAMでの主な展覧会に「呼吸する地図たち」（2018年）、「布のデミウルゴス」（2017年）、「プロミス・パーク ― 未来のパターンへのイマジネーション」（2015年）などの企画がある。またメディア技術の視点から、資源や歴史、文化などのフィールド・リサーチを行い、地方都市における文化的なリソースの開拓を行ってきた。2019年より独立し、愛知県を拠点に展覧会の企画を中心に活動を行っている。

トンチャイ・ウィニッチャクン
Thongchai Winichakul
［ウィスコンシン大学マディソン校教授、JETROアジア経済研究所上席主任調査研究員］
専門はタイ近代史。ナショナリズム論の名著『Siam Mapped』（『地図がつくったタイ』邦訳：石井米雄、2003年）で知られる。本事業「呼吸する地図たち」は同著の「地理的身体（geo-body）」という概念を基本コンセプトとして企画されたもので、今回の対話はキュレーターからの強いオファーで特別に実現することとなった。

イルワン・アーメット＆ティタ・サリナ
Irwan Ahmett & Tita Salina
［アーティスト／インドネシア］
ジャカルタを拠点とするアーティスト。活動初期には都市の公共空間の社会的問題に焦点を当てた作品を制作していたが、近年は国境を越えて環太平洋火山帯における地政学的な対立・紛争を表した長期プロジェクトを行い、人類、不公平さ、生態学に関するより複雑な物事と関連させた作品制作に取り組んでいる。

小原真史
Kohara Masashi
［キュレーター、映像作家／日本］
「中平卓馬試論」（2005年）で第10回重森弘淹写真評論賞、2016年日本写真協会賞学芸賞を受賞。IZU PHOTO MUSIUMの研究員として「宮崎学　自然の鉛筆」展（2013年）、「増山たづ子 すべて写真になる日まで」展（2013年）などを担当。また単著に『富士幻景―近代日本と富士の病』（2012年）、共著に『時の宙づり―生・写真・死』（2010年）、『戦争と平和―（報道写真）が伝えたかった日本』（2015年）、『森の探偵―無人カメラがとらえた日本の自然』（2017年）などがある。

志賀理江子＋清水チナツ＋長崎由幹
Shiga Lieko + Shimizu Chinatsu + Nagasaki Yoshitomo
［日本］
写真家の志賀理江子、インディペンデント・キュレーターの清水チナツ、映像作家の長崎由幹からなり、宮城県を拠点に志賀理江子「ヒューマン・スプリング」展（東京都写真美術館、2019年）の作品制作のために共同で活動するグループ。東北の人、風土、歴史に学びながら、日々の気づきを共有・交換するために集まり、読書会や上映会を行っている。

古市保子
Furuichi Yasuko
［国際交流基金アジアセンター美術コーディネーター／日本］
国際交流基金において1990年より現在までアジアと日本の美術交流を手掛ける。「美術前線北上中―東南アジアのニューアート」（1992年）をはじめに、アジアのキュレーターとの協働事業として「アンダー・コンストラクション」（2000-03年）、近年では「他人の時間」展（2015-17年）などを企画。さらに次世代キュレーター間のネットワーク構築を目的に「アジア次世代キュレーター会議」（2006-14年）や「Condition Report」（2015-17年）などを実施するとともに、『アジアのアートスペース・ガイド』（2002、05、09年）や「The Japan Foundation Asia Center Art Studies」シリーズ（2015-19年）を制作。

インスタレーション

ホー・ツーニェン［アーティスト／シンガポール］ Ho Tzu Nyen

「東南アジアのクリティカル・ディクショナリー」 *The Critical Dictionary of Southeast Asia*

東南アジアは複雑な言語や宗教、政治的権力を有し、統一されたことのない地域である。本作品は、東南アジアという概念的なフレームについて、継続的なリサーチを行うための共同プラットフォームであり、本展では、そのビデオ・インスタレーション版を公開する。26の用語（アルファベットの各文字につきひとつ）を、映像のモンタージュと共に提示することで、東南アジアの複雑な定義を検証する。

アーカイヴ映像展示

カルロス・セルドラン［パフォーマンス・アーティスト／フィリピン］ Carlos Celdran

「イントロムロス・パフォーマンス・ツアー Walk This Way」

Intramuros Performance Tour " Walk This Way"

パフォーマンス・アーティスト、活動家として知られるセルドランがマニラの名史跡「イントロムロス」で毎日開催している観光ガイドツアーのドキュメンテーション。スペイン植民地、米国統治、日本軍の占領、米国軍の空爆、マルコス政権と続く歴史的事象によって上書きされてきたイントロムロスの歴史を歩きながら、ツアー参加者にセルドランの視点からフィリピンの歴史を批判的に紹介する。

チ・トゥー［アーティスト／マレーシア］ chi too

「カット・グラス・ピース」 *Cut Grass Piece*

2010年の日本でのレジデンスを契機に第二次世界大戦と原爆についての相互理解として、日本の観衆と対話する試みとして「ピカ-boo」という一連のパフォーマンスを実施。この「ピカ-boo」の最後のパフォーマンスとなった《カット・グラス・ピース（草を刈る）》を山口情報芸術センター［YCAM］において再演した記録。

ファリッシュ・ヌール［歴史学者／マレーシア］ Farish A. Noor

「知るべきことは何もない：スタンフォード・ラッフルズ ジャワの地図と帝国認識論」

Nothing Left to Know: Stamford Raffles' Map of Java and the Epistemlology of Empire

19世紀初頭英領ジャワの副知事であったシンガポール創設の父トーマス・スタンフォード・ラッフルズが1817年に出版した『ジャワの歴史』に掲載された200年前の地図に焦点をあて、植民地時代の地図製作の役割や地図と権力の関係を紐解いたレクチャーの記録。

オクイ・ララ［アーティスト／マレーシア］ Okui Lala

「通訳を手伝ってくれませんか？」 *Can you help me translate?*

オクイは、歴史的にアジアと西洋との交易の拠点となってきたペナン島の多文化環境を背景に移民、移動、それに伴うディアスポラのアイデンティティについて調査した結果をもとに作品を発表してきた。ＹＣＡＭではヤンゴンと東京で購入したミャンマー人向けの2冊の日本語教科書をもとに、労働、翻訳、適応とは何かを問いかける対話とパフォーマンスを実施した。

西尾佳織［劇作家／日本］ Nishio Kaori

「なぜ私はここにいて、彼女たちはあそこにいるのか―からゆきさんをめぐる旅」

Why I am here, why she is there : Journeys around Karayuki-san

5歳から5年半マレーシアのクアラルンプールで過ごした西尾が、2018年ある奇縁から日本人墓地に眠る人びとの調査を開始した。その墓地に眠る8割は「からゆきさん」と呼ばれた日本人女性であった。主に経済的理由から島原・天草から東南アジアへと渡った彼女たちの足跡をたどる旅。

小原真史［キュレーター、映像作家／日本］ Kohara Masashi

「人類館と博覧会」 *The 1903 Human Pavilion and Expositions*

欧米の先進技術紹介と国内の殖産産業を推進することを目的に1877年から開始された内国勧業博覧会。1903年、大阪での第5回内国博は、台湾の日本編入を背景に植民地パビリオンが作られるなど帝国としての日本を国内外に表象する重要な契機となった。日本初の「人間の展示」が行われた人類館と新たに発見された写真を中心に、近代日本の自己像と他者像について考察した記録。

ジャネット・ピレイ［社会学者／マレーシア］ Janet Pillai

「マッピング・カルチャー：変化の理解とマネージング」

Mapping Culture: Understanding and Managing Change

カルチュラル・マッピングと「場の創設」のための活動を紹介。特に人々、土地、地理的な場所の活用の間に生じる相互作用に焦点をあて、文化的なエコロジーと継続性を理解するための過程や手段、技術に関するレクチャーの記録。

［イベント申込方法］
下記必要事項を明記の上、件名を「呼吸する地図たち」としてお申込みください。
E-mail: jfac_visual_arts@jpf.go.jp
1.お名前（ふりがな）　2.ご希望日とイベントタイトル
3.ご職業　4.電話番号　5.E-mailアドレス
締切‖各回前日　定員‖100名
※受付先着順、定員になり次第締め切らせていただきます。

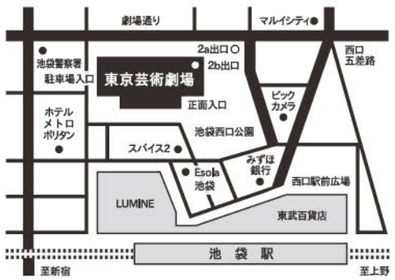
［お問い合わせ］
国際交流基金アジアセンター［古市］
Tel: 03-5369-6140｜Fax: 03-5369-6141
E-mail: jfac_visual_arts@jpf.go.jp
https://jfac.jp/
※イベントに変更が生じた場合は、
アジアセンターのウェブサイトにて告知します。

[To sign up]
Please send the following information by e-mail with its subjects as "The Breathing of Maps"
E-mail: jfac_visual_arts@jpf.go.jp
1. Name　2. Desired date and Title
3. Affiation/Occupation　4. Phone Number
5. E-mail address
*We will send a confermation as we received applications.

[For Inquiries]
The Japan Foundation Asia Center
(Attn. Furuichi Yasuko)
Tel: 81-5369-6140 | Fax: 81-3-5369-6141
E-mail: jfac_visual_arts@jpf.go.jp
https://jfac.jp/en/
*Any changes to the event will be announced on the the Japan Foundation Asia Center website.

［主催］
国際交流基金アジアセンター
［共催］
東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
［協力］
山口情報芸術センター［YCAM］
［機材協力］
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

[Organizer]
The Japan Foundation Asia Center
[Co-organizer]
Tokyo Metropolitan Theatre
(Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)
[Supported by]
Yamaguchi Center for Arts and Media [YCAM]
[In cooperation with]
Canon Marketing Japan Inc.



東京芸術劇場
〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1｜電話 03-5391-2111
JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。
池袋駅地下通路2b出口と直結しています。
https://www.geigeki.jp/

写真：谷康弘　写真提供：山口情報芸術センター［YCAM］　Design: Onaka Shunsuke [Calamari Inc.]